

めぐみイエス・キリスト教会

2022年1月23日(日) 第四主日礼拝
週報「通算第592号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌222「罪の深みに」 p. 336

【交読文】 No.15詩篇第40篇 p. 890

【賛美Ⅱ】 新聖歌420「雨を降り注ぎ」 p. 676

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.20「神の国となる為に」

【聖書朗読】 使徒の働き14章1節～7節

【礼拝説教】 《イコニオンにおいて》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※聖書箇所【使徒の働き14章1節～7節）新約p. 263上段】

14:1 イコニオンでも、同じことが起こった。二人がユダヤ人の会堂に入っ
て話をすると、ユダヤ人もギリシア人も大勢の人々が信じた。

14:2 ところが、信じようとしなないユダヤ人たちは、異邦人たちを扇動し
て、兄弟たちに対して悪意を抱かせた。

14:3 それでも、二人は長く滞在し、主によって大胆に語った。主は彼ら
の手によってしるしと不思議を行なわせ、その恵みの言葉を証しされた。

14:4 すると、町の人々は二派に分かれ、一方はユダヤ人の側に、もう一
方は使徒たちの側についた。

14:5 異邦人とユダヤ人が彼らの指導者たちと一緒にになり、二人を辱めて
石打ちにしようとして企てたとき、

14:6 二人はそれを知って、リカオニアの町であるリステラとデルベ、およ

びその付近の地方に難を避け、
14:7 そこで福音の宣教を続けた。

●ポイント1.「イコニオム(イコニオン)」とは？

■イコニオム 小アジア、ガラテヤ南部の高原にあった町。歴史的には、紀元前3世紀以後、セレウコス王朝に支配されたが、紀元前63年にローマ皇帝ポンペイウスが制圧した。その後ローマの属州とされた。パウロは第1回伝道旅行の折、バルナバを伴ってこの地に足を踏み入れた。のち何度か再訪している。ここではかなりの回心者が与えられたが、ユダヤ人による反対も激しかった。彼の書いたガラテヤ人への手紙は、この地域を含む南ガラテヤの諸教会にあてたものであるとする説が有力である。

●ポイント2.「み言葉を信じる者と信じない者」とは？

※ヨハネの福音書12章44節～50節「主イエスの言葉」 (新約p.210下段)

●ポイント3.「み言葉に従う者と従わない者」とは？

※ヨハネの福音書15章9節～10節「私に留まりなさい」 (新約p.216上段)

15:9 「父が私を愛されたように、私もあなたがたを愛しました。私の愛にとどまりなさい。

15:10 私が私の父の戒めを守って、父の愛にとどまっているのと同じように、あなたがたも私の戒めを守るなら、私の愛にとどまっているのです。」

※第I ペテロ4章2節「使徒ペテロの勧めから」 (新約p.470上段)

4:2 それは、あなたがたが地上での残された時を、もはや人間の欲望にではなく、神のみ心に生きるようになるためです。

※ヤコブの手紙1章22節～24節「み言葉を行なう人」 (新約p.459上段)

1:22 み言葉を行なう人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者となってははいけません。

1:23 み言葉を聞いても行なわない人がいるなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡で眺める人のようです。

1:24 眺めても、そこを離れると、自分がどのようなであったか、すぐに忘れてしまいます。

◎先週の礼拝メッセージの概要【2022年標題聖句(そのⅡ)】

《先週に引き続き、2022年標題聖句からとなります。使徒パウロは勧めます。「高ぶらないように」と。神様が一番嫌われることは「高ぶること」です。自分が神であることを宣言しているようなものです。私たちは、何時いかなる時も、主イエス様の十字架の恵みを忘れてはならないのです。

次に「たよりにならない富に望みを置かないように」と。もちろん、私たちがこの世に生きて行く為には、最低限のお金は必要です。主イエス様は、それらのものを、すべて与えて下さることを、約束されています。

次は「私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置くように」と。私たちに与えられている物は、すべて恵みです。「あなたがたは、私の名によって求めなさい。そうすれば受けます。あなたがたの喜びが満ち溢れるようになる為です。」と、主は言われます。

さて次は、「人の益を計り、良い行ないに富み、惜しまずに施し、喜んで分け与えるように」とのことです。使徒パウロはこのように教えています。『私たちは神の作品であって、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをあらかじめ備えて下さいました。』と。「良い行ない」とは、もちろん他人に対するものです。主はかつて、弟子たちに言われました。「与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。あなたがたが量るその秤で、あなたがたも量り返してもらえますからです。」と。常に与えることが先決なのです。そして、最後に言われたことが、『まことの命を得る為に、未来に備えて良い基礎を自分自身の為に築き上げるように』とのことでした。これは、私たちが目指すゴールを指しています。「まことの命」とは、「永遠の命」のことです。使徒パウロは、第Ⅰコリント人への手紙において、「競技場で走る人」のたとえを持って、クリスチャンライフを描いています。大切なことは、『他の人に宣べ伝えておきながら、自分自身が失格者にならないようにする』ことです。信仰を捨て去ることのないよう、最後まで、キリスト者としての人生を全うしなさい、ということなのです。》

◎お知らせ

※教会大会テーマ曲は無事に披露することが出来ました。お祈り感謝いたします。次回礼拝は、1月30日(日)です。特別メッセージです。